2面 YWCA・YMCA合同祈祷週両会長メッセージ
暴力に勝利はない。非暴力による変革を目指して！

3面 第31回 全国会員総会開催のお知らせパート2

4面 夏のプログラム報告──「核」否定の思想に立って

The Young Women's Christian Association

YWCA

日本YWCAの使命（ミッション）
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題
平和を実現する人々は幸いである─マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015
（1）非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
（2）若い女性のリーダーシップを養成する

10
OCTOBER 2012
No.710

www.ywca.or.jp

Violence against Women

暴力被害を言い出せない状況にある女性たち──被災地にあって

丹羽麻子
日本フェミニストカウンセリング学会認定
フェミニストカウンセラー
日本基督教団郡山教会員

社会がピンチになると、鬱積した力が往々にして立場の弱い者に差し向けられます。戦争や災害といった非常時には、女性や少女への暴力が特に増加すると言われている所以です。

現在私は、東日本大震災後に内閣府が開設した「女性のための電話相談・ふくしま」の拠点運営に携わっています。通話料無料・匿名で利用できるように設定されたこの相談窓口には、福島県内外から毎日多くのご相談が寄せられています。

当初、私はDVやセクハラ・性被害などの女性に対する暴力の相談がたくさんかかるだろうと思っていました。しかし、そうした問題ズバリの相談は、今のところ私が予測したほどにはないのです。ではこの震災に限っては女性に対する暴力はさほど起きていないのか？ 決してそうではありません。日々の相談を丹念に追っていくと、別の問題が浮かび上がってきました。それは暴力がないなどということではなく、甚大な被災と根強い家父長的な地域社会のもとで、暴力被害についてなどとても言い出せないより過酷な状況に女性たちが置かれているということです。

たとえば、「なんだか毎日がうまくいかなくて…」というご相談によくよくお付き合いしていくと、利用者の方もだんだん心を開いて「実は夫の言葉の暴力がひどいのです」とおっしゃる。「えっ、それはDVではありませんか」とさらに丁寧に伺っていくと、「何度も首を絞められました」というお話が初めて出てきたりするのです。そしてそういうご相談の背景には、社会の「ピンチ」が横たわっています。突然の賠償金や仮設暮らしで生活感覚や生きがいといった人生の軸が揺るがされていたり、あるいは震災で傾いた商売の先行き不安があったり、放射能から避難した妻子と地元で家計を担う夫との葛藤があったり…。

被災の影響が個人の生活に入り込むほど、家族や地域の情緒調整やケア役割負担を当然とされてきた女性の口から、暴力被害を主張するのは、並大抵のことではありません。他者優先行動を刷りこまれてきた女性たちが、「私さえ我慢すれば…」と考えるのは当然の成り行きですし、周囲からも「昔から女とはそういうものだ」と諌められるのが目に見えていたら、とても言挙げなどできるわけがありません。

彼女に起きた暴力は、彼女個人の問題ではなく、社会が女性というものに押し付けた「ピンチ」のしわ寄せです。女性たちが自らの尊厳を確信し、性差別的社会にNOと言えるようになるためには、社会の側にこそ、女性に対する暴力を決して許さない視点と、被害に際してはきちんと彼女の権利を認め回復する手立ての用意が必要なのです。まずは、彼女と同じ地平に立つ私たち女性自身が、その視点と支援資源とを備えていく根拠を持っているのではないでしょうか。

社会が混沌を極める今、この世のジェンダー偏見に拠らずに平和をつくりだす女性団体YWCAの存在と総合支援機能は、ますます重要です。YWCAが培ってきた、女性に対するあらゆる暴力の根絶を力強く明言し、社会に働きかけていく取り組みと、共感と信仰に基づく世界の女性たちとの連帯とを、被災地にあってとても心強く思っています。

YWCA・YMCA合同祈祷週
2012年11月11日（日）〜17日（土）

「暴力に勝利はない。非暴力による変革を目指して！」

YWCA・YMCA両会長のメッセージ

私たちの周りはメディアを通して流される暴力の映像・音声・言語に満ちあふれています。そこで描かれる姿は、最も非人間的で理不尽で醜い暴力です。紛争下での女性と子どもたちへの暴力や環境破壊まで、暴力は相変わらず多くの破壊と死を創出しています。暴力行為が増加する世界にあって、創造的で非暴力の方法を用いながら、問題に果敢に取り組んでいる女性や男性、そして若者たちがいます。

一度暴力が行使されると、暴力は繰り返される傾向があります。そして、根本的な問題は、暴力行為が犯罪行為ではなく、私的な問題だと思われている点にあります。文化や風習が意図的に、または無意識に人権侵害の道具となり、力の乱用を支持してきました。この冊子の各章で紹介されているような暴力は、今日、男性たち、時には女性たちによって、「伝統的規範」という名のもとに正当化されています。

世界では、人間としての権利・公平・尊厳を犠牲にする準備が進んでいるように見えます。そして暴力が安泰を得る手段として選ばれています。平和と正義を実現しようとする人たちはどこにいるのでしょうか。

YWCAとYMCAは単に問題の兆候を指摘するのではなく、その元凶を指摘することが大切だと考えます。YMCAとYWCAは、多様な暴力の形態に対処した活動をしており、その具体的な活動を通して、私たちの理念が実践に現われていることが分かるでしょう。

（中略）

信仰を持つ女性と男性である私たちは、神に召された働き手として、分断する壁ではなく共闘する道を作ることを通して、平和を隅々まで行き渡らせる使命があります。世界は癒しの力による恩恵が必要です。私たちは、平和的解決を試みる際に起こる痛みを受け止める心構えが必要です。

私たちが平和の実現を信じ、非暴力こそがその方法だと選択するならば、ガンジーの次のことばに賛同できるはずです。たとえ私たちが公然なる抑圧者に手を上げないからといって、抑圧する者に屈服しているわけではない、と。つまり、平和は受動的に実現できるものではないのです。むしろ、平和は不正義に苦しめられている人たちと私たちの人生に変化を促すことを通して、生きる力として、経験されるものなのです。

平和は自由意志で捧げる贈り物のようなものです。しかし、私たちが単にこれを受容するのではなく、実践するためには、私たち自身が平和活動に関わらなければなりません。暴力の仲裁者であることには、勇気と決意が必要です。どんな暴力であっても、私たちは皆影響を受けます。しかし、私たちの中の何人の者が真剣に立ち上がり、「暴力よ、おまえに勝利はない」と言うでしょうか。一方で、今まで以上に多くの人たちが助けを必要としている者たちと共に立ち上がっています。私たちの道のりはまだまだ長く遠いものですが、日々、変革の歩みを進めています。

今年の合同祈祷週は、暴力克服のための平和的取り組みが、どのようにさまざまな顔をした暴力と関わるかという論点を多彩な見解から書き表しています。

変革するかどうかは私たちの手の中にあります。平和という文化を築きましょう。そして、平和は私たち個人から始まることを認識しましょう。

世界YWCA会長
デボラ・トーマス＝オースティン
世界YMCA同盟会長
ケン・コロトン
（訳：安川美歩）

憲法や政治を注視しよう！

内山佳子

東京YWCAでは8月25日（土）、高田健さん（許すな！憲法改悪・市民連絡会事務局次長、九条の会事務局員）をお迎えし、「近づく総選挙と、改憲への動き」と題して緊急憲法勉強会を実施した。東京という地理的条件を利用し、4月から院内集会や、衆参両議院における憲法審査会を傍聴してきた団体として、一人でも多くの人と、憲法を取り巻く危機的状況を共有し、個人として、また団体として、「何ができるか」「何をしなければならないか」を考えたいと思ったからである。猛暑の中にあっても、多くの方々が集い、熱心に学び、平和憲法を守り抜こうという熱意に包まれた。

私はこの間、国会の議場での政治家の発言を聞いて、選挙が大事なことを改めて実感してきた。近づく選挙では政局の混迷で誰を選んだらよいか迷ってしまう。しかし、候補者の言葉に注意深く耳を傾け、再び「戦争ができる国」にしないように、日本の宝と言われる平和憲法を変えないと明言する政治家や政党を選びたい。

原発・震災・自然環境破壊・憲法改悪など私たちの生活環境は課題山積の今日だからこそ、平和を生み出さないもの、命を脅かすものには「NO!」という勇気を持ちたい。「できることから実践しよう」をスローガンとする東京YWCAで10月27日からスタートする「憲法カフェ」もその一つである。イエス・キリストの求められる平和が地上に実現できるよう、知恵と力を祈り求めながら、平和をつくり出す道具として用いていただきたいと願っている。

（東京YWCA運営委員長）

第31回 全国会員総会開催のお知らせ part 2

来る11月23日（金・休）～ 25日（月）、日本YWCA第31回全国会員総会を開催いたします。それに先立ち、初日の23日12時30分よりいくつかのプログラムを企画しています。今回はプレ総会・交流会・オープンプログラムを中心にご案内します。

YWCAユース・ギャザリング

23日（金・休）は、12時30分より15時まで二つのプレ総会プログラムを並行して行います。一つは30歳以下のユースを対象にした「YWCAユース・ギャザリング」。若者たちが出会い、ともに働く楽しさ、素晴らしさを実感しつつ、結果的に一人ひとりがエンパワーされることを目指します。殊に初めての参加者にはYWCAを自分の眼で見、耳で聴き、心で感じてほしいと願っています。講師として金香百合さん（HEALホリスティック教育実践研究所所長・大阪YWCA会員）を迎えます。

女性たちのリーダーシップトレーニング

同時間に開催されるもう一つは「女性たちのリーダーシップトレーニング—YWCAの活動をもっと推進するために!」です。マネジメントの基本を学び、そこから新たな活動を展開することを目指します。リソースパーソンとして岸本幸子さん（特定非営利活動法人パブリックリソースセンター理事・事務局長）を迎えます。一方的に講義を聴くのではなくて、参加型の形で進めていきます。

交流会

15時30分から17時まで交流会を持ちます。フェイバード・ゴスペルクワイアの歌声で幕が開きます。そしてお茶とお菓子をいただきながらの歓談の時へと移ります。後半は地域YWCAのアピールの時となります。各ローカルYWCAが取り組む被災者支援活動やそのYWCA独自のプログラムの紹介。いつもながら短い時間でいかに上手にアピールできるか、楽しみながら工夫をしていただきます。被災者支援活動のためのオークションも予定しています。

種々のプログラムを通して会員が日常の活動を分かち合い、今後の活動展開に向けてネットワークをつくれるように、さらには社会を変革するためのスキルを一人ひとりが身につけられるようにと願います。また、どうぞこの機会に、新しい方たちにお声掛けくださり、ご一緒にご参加ください。

オープンプログラム—憲法についての講演会

23日夜には、不特定多数の方々に公開するオープンプログラムとして、憲法に関する講演会を開きます。講師は、小沢隆一さん（東京慈恵会医科大学教授/憲法学）です。

日本の政治が限りなく保守化する中、それに呼応するかのように憲法は改悪の危機に直面しています。軍備を捨てた小さくない一つの国があるということが、世界平和にとってどれほど大きな貢献になるか計り知れないことを信じて、YWCAとして、また他の団体と力を合わせ何が出来るか示唆を与えられ、考える時としたいと思います。

●

翌24日（土）からは、前号でお知らせした通り、YWCAの今後4年間のビジョンや行動計画についての協議、会長・副会長・書記・運営委員の選挙等を行います。この総会が、第31総会期の最初の一歩として、生き生きとしたものとなりますようともに祈りをあわせていきたいと思います。

第31回全国会員総会準備委員長
実生律子

種

「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。

（コリントの信徒への手紙Ⅱ　4章6節）

台風一過、沖縄の空は、青く輝き海の色も紺碧に染まり、かすかに秋の気配がただよっています。私は10月生まれなので、物心ついた頃から誕生日が近づく秋になると、自分はこれでいいのかとハッとする思いで考えさせられてきました。自分の心の闇を見つめる時、光と対岸にあるものと考えていましたが、闇も神が創造されたものであることを示され、暗闇があるから光が輝くのだと、何かすとんと胸に落ちる思いでした。

沖縄の闇は、基地に関わるさまざまな出来事と言えると思いますが、日米両政府は、世界一危険だと言われている普天間基地に躍起になってオスプレイを配備しようとしているのはなぜでしょうか。しかも閉鎖が合意されている普天間基地に。戦後67年も小さな島である沖縄に、74％もの基地を押しつけたままさらに基地強化を進めるとはどういうことでしょうか。この現実に多くの日本国民が無言であること、世界中のどこにも基地はいらないとの声を上げないのを不思議に思います。

宇佐美節子
沖縄YWCA会員・
日本キリスト教団石川教会牧師

「核」否定の思想に立って 1

No Nukes!
No Nuclear Power Plants!

ひろしまを考える旅 2012

グローバルヒバクシャ

ひろしまで考える被爆と被曝

今年の「ひろしまを考える旅」は、8月7日(火)～9日(木)に開催し、中国YWCA・インドYWCAのゲストと各国からの留学生、そして被災地を含めた全国各地からの参加者、総勢54名が広島に集まりました。祈りに覚えてくださった皆さまに感謝するとともに、よい出会いと学びの時が与えられ、すべてのプログラムが無事に終了したことを報告いたします。

今回初めてインドYWCAをお招きしたのは、6月にインドで開催されたユースプログラムに日本YWCAのユースが参加したことがきっかけでした。

さて、昨年の3・11の〝あの日〟から1年5か月が過ぎても原発事故は収束せず、私たちは言わば「被ばく社会」に生きています。広島・長崎の〝あの日〟と地球上で起き続けているヒバクについて学ぶことは、私たちがこれからを生きていく上で大切だという思いで、テーマ「グローバルヒバクシャ～ひろしまで考える被爆と被曝」のプログラムを進めました。グローバルヒバクシャとは、核開発による放射線ヒバクシャを全部含めて表します。そのようなグローバルヒバクシャを増やさないよう私たちにできることなどをディスカッションしたり、ワークショップや平和資料館見学・碑めぐり・フィールドワーク・被爆証言などを通して一人ひとりが感じ、考え、話し合ったことは、貴重な体験となったことと思います。

開会では広島女学院中高YWCAの皆さんが、ハンドベルや朗読によるメッセージをしてくださいました。また、暑い中を碑めぐりやフィールドワークの案内をしてくださった方々、私たちのために被爆証言をしてくださった方々、会場を貸してくださった広島YWCA、初めての場所であったホテルなど、広島現地で多くの皆さまのご理解とご協力をいただき心から感謝いたします。ありがとうございました。

それぞれの場に戻った皆さんは、広島で出会った人々の話や体験した一つひとつの感動を周りの家族や友人に伝え、平和な世界を築くための歩みを進めていることでしょう。記録集も楽しみにしていてください。

核は人間と共存できないと学んだ私たちは、3・11以後の新しい生き方を実践していきたいと願っています。

ひろしまを考える旅委員会委員長
横山由美子

インドに持ち帰ります

広島に原爆を落とすよう指令を受けていたパイロットたちは、自分たちが何を運んでいくのか知らされていませんでした。機体に積んだものを投下したら、後ろを見ないで帰ってくるよう命じられていました。しかし、一人のパイロットはそれでも振り向きました。彼は、100万もの太陽が空中で爆発し燃えているのを見たと言います。ひろしまを考える旅の参加者全員は、二度と100万もの太陽が燃えるのを見ることがないよう願い、そのために取り組みました。

被爆した人たちの傷口は癒えましたが、傷跡は決して消えません。そして、一つひとつの傷跡には歴史があります。私たちは、そのような被爆者の1人からお話を聞きました。話をする彼が、私たちに見せるために自分の心の傷口をもう一度開いているのだとわかった時、胸が詰まりました。広島で本当にたくさんのことを学びました。それをみんな、インドに持ち帰りたいと思います。

広島は、私の人生の中で美しく悲しい歌のような存在として残るでしょう。しかし、ここにあったのは悲しみだけではありません。人々は、灰の中から不死鳥のように蘇りました。それでもなお、この高みにある民族の一人ひとりに道で出会えば、謙虚なおじぎをせずにすれ違う人はいません。この人たちに接していると自分まで謙虚な思いになり、私自身、日本にきて自分の中の良さが引き出された思いがしました。

(原文英語、抜粋)

インドYWCA、大学生
ウパサナ・ボルドロイ

「核」否定の思想に立って 2

No Nukes!
No Nuclear Power Plants!

日韓ユース・カンファレンス2012
私たちは核のない未来を見ることができる

原発と聞いてあなたは何を思い浮かべますか? 安全? クリーンエネルギー? 安い? もはやこんなことを思い浮かべる人はほとんどいないと思います。原発は核です。「核の平和利用」とは、私たちに平和なイメージを与えるために意図的につくられた言葉であり、原発は核発電所と呼んだ方が正確です。私たちの国は核を持っています。

今年度の日韓ユース・カンファレンスは、8月24日(金)~27日(月)に「原発」をテーマに、チッソ工場から排出された有機水銀による水俣病が引き起こされた水俣で3泊4日にわたり実施、日本側19名、韓国側21名が参加しました。水俣病というのはただの水質汚染による食中毒事件ではなく、原発と同じ経済と権力の癒着から起きた人災です。今も多くの人が痛みに苦しめられ、社会からの差別に耐え、国からの補償の問題に声をあげ、解決へと日々闘っています。しかし、私たちはまた福島の原発のメルトダウンによる放射能漏れによって、人災を引き起こしてしまいました。誰が責任をとるのですか? 国ですか? 何のために原発が必要ですか? お金ですか? たとえ苦しく孤独な道であっても、私たち一人ひとりが意識を持って、脱原発へと導く行動を起こして、今後も闘い続けなければならないのではないでしょうか。

本プログラムでは、最初にお互いの国の原発事情を知り、実際に水俣を訪れ、水俣病の患者の方の生の声を聞き、「水俣病」と「原発」に対する考えを深めました。さらには個人の思いを全体の行動へとつなげるために、「原発」「日韓」「当事者」「行動」というテーマで3つの具体的なアクション(キャラクターとスローガン。及び日韓両国の言語で、手軽に原発のことが学べる「ドレミの歌の替え歌と「ロミオとジュリエットを題材にした反原発劇)を作りました。

プログラムを通して両YWCAユースが出した答えは、「私たちは核のない未来を見ることができる」です。原発はいりません。人を傷つける核はいりません。私たちは原発のない世界をつくるために、今後も平和の立場から責任を持って活動を続けていきます。日韓ユース・カンファレンスは平和を築く第一歩です。参加した一人ひとりが種となり、大きな実をつける木となっていくことを私は確信しています。

日韓ユース・カンファレンス2012
実行委員長　田中浩子

伝えたい

4日間共に過ごした日韓ユース・カンファレンス参加者から、キム・セルビン(大学生/韓国)と、保元志織さん(高校生/日本)の声をお伝えします。

Q1 参加した感想をお聞かせください。

キム:参加者全員に会えて良かったという気持ちです。プログラムでは、毎晩夜遅くまで話し合っていたので少し疲れた時もありましたが、お互いに支え合い頑張って話し合いました。この瞬間が、人生の中で大切なことだと思いました。

保元:フィールドワークで、胎児性水俣病患者の坂本しのぶさんに会い、お話を聞けたことは私にとって大きな刺激となりました。この経験から、実際にお会いし、心で感じることの大切さを学びました。

Q2 プログラムで学んだことを、今後どのように活かしたいですか。

キム:私が学んだことを、家族や友達に伝えたいです。坂本しのぶさんから伝えてもらったことを友達に伝えなければ、問題は変わらないと思いました。だからこの問題のことを一生懸命に伝えたいです。

保元:私が学んだ水俣病と原子力発電所の問題を、より深く学んでいくことが必要だと思いました。なぜなら、問題を詳しく知らないと人にうまく伝えられないからです。今後たくさんの本を読んで知識を深めていきたいです。

インタビュアー:運営委員
木村真理子

「核」否定の思想に立って 3

No Nukes! No Nuclear Power Plants!

インドYWCA主催

ユース環境プログラム "Yuva Hubba"に参加して

日程：2012年6月15日（金）～17日（日）
場所：インド・バンガロール　参加者：約50名

ユース交流の懸け橋に

インドでは「水」に関する問題が深刻で、生活に欠かせない水が不足する事態や化学薬品や土壌汚染による健康被害があります。適切な処理がされていない水を生活用水として使用することで、特に体のつくりが未熟な子どもたちに大きな影響を与えています。今回私が参加したプログラムでは、水や食の安全性についてはもちろんのこと、気候変動などのグローバルな視点から女性に対する暴力を学び、ディスカッションも行われました。

プログラム期間中、日本YWCAは環境問題に関するワークショップの時間をいただき、私は「NO NUCLEAR-FREE WORLD, NO SAFE WORLD（核のない世界なくして安全な世界はない）」というテーマで核の脅威を述べ、脱原発に向けてアクションをする必要性を訴えました。東京電力福島第一原発事故以来、脱原発の声が高まっているのは日本だけではありません。インドでも各地で脱原発を訴える声が高まっており、女性が主導になったデモも起きています。ワークショップでは、原爆・チェルノブイリ原発事故・福島第一原発事故など核の歴史を振り返り、「ATOMS FOR PEACE（核の平和利用）」がもたらした環境破壊と女性への暴力を参加者同士で再確認しました。核保有国であるインドのYWCAユースと原発事故で大きな問題を抱えている日本のメンバーが共に核について学び、考え、議論できたことはとても意義のあることだと思います。

今回のような、日本YWCAとインドYWCAのユースが共にひとつのプログラムに参加することは久々の試みでした。私たちの参加が、今後の両YWCAのユース交流のさらなる懸け橋になることができたらうれしく思います。そして、これからも一人のYWCA会員として「核」否定の思想に立ち、インドでの経験を活かして活動していきたいです。

札幌YWCA　伊藤早織

第2の福島になってほしくない

今回私たちはインドYWCA主催の環境プログラムに参加した。その中の食と生態系についてのワークショップでは、大量に食品を生み出すためにさまざまな科学技術が用いられ、生態系が破壊されていること、企業が市場を独占し利益を得ることで農家の貧しさが生み出されていることが述べられた。農業システムや遺伝子工学の技術ばかりが発展するのでなく、消費者側も環境と調和した農業を考えなければいけないと学んだ。

2日目には日本YWCAから放射能と核をテーマにしたプレゼンテーションを行った。私は、地震と原発事故での体験と、福島の現状から見えてくる原子力の危険性を伝えた。特に、日本には今も立入禁止の地域がありそこでは残された動物たちが自分の糞にまみれて命を落としているということにインドの参加者は衝撃を受けているようだった。インドで原子力発電所の事故が起きたらどうなるかという問いでは「遺伝子の突然変異が起き次の世代に影響する」「経済状況が悪化し、貧困を引き起こす」などの意見があげられた。

夜の交流会では、1日目にフェースペインティング＝写真＝、2日目にはダンスパーティーを行った。互いの顔に絵を描いて笑い合い、汗をかきながらダンスをするなど、言葉以上の心の交流ができた。

各プログラムを通じて環境問題へのインドユースの意識の高さを感じ、日本を違った視点で見ることが出来た。日本は生活環境が整備され、物質的にも何不自由ない日常が当たり前になっているが、私たちの豊かさが地球上の他の国の貧しさや苦しみを生み出している部分についても考え、議論することが必要だと感じた。現在、インドでは原子力発電が推進されているが今回の交流を通してインドが第2の福島になってほしくないという思いがさらに強くなった。国が違っていても同じ地球に住む人間として、今後も手を取り合って環境問題へ取り組んでいくことが、大きな力になると確信することができた。

福島YWCA　半澤紗也子

写真左 伊藤さん、右 半澤さん

中高ＹＷＣＡ 夏のカンファレンス

中高ＹＷＣＡでは、夏に３地区でカンファレンスが行われています。その様子を地区別にお伝えします。

東北・北海道地区

7月30日～8月1日に札幌の北星学園女子高校が担当し、北海道クリスチャンセンターを会場として開催されました。参加者は生徒36名、教員12名、日本ＹＷＣＡより1名、計49名です。今年度は「環境」をテーマとして、参加各校で作成したレポートの発表がなされました。日本ＹＷＣＡから派遣いただいた半澤紗也子さん（福島ＹＷＣＡ会員）は「福島での被災体験とインドでのユースプログラムに参加して」と題して話してくださいました。

環境に関しての学びは、講演と、フィールドワークで行われました。講演は滝口亘先生と、柏陽太郎先生から、フィールドワークは、北海道大学総合博物館にて行い、北海道大学の前身の札幌農学校開校以来のコレクションを見学しました。それらのプログラムから環境について学びを深めました。

今回のカンファレンスは、食事の面で札幌ＹＷＣＡの皆さんの多大なる協力を得て開催されたのが特徴です。Y's Ｃａｆｅの運営で慣れておられるとはいえ、朝早くから45名の参加者の食事を豊かに整えて下さったことは、カンファレンスの成功につながりました。感謝。

関東地区

静岡英和女学院が当番校となり、8月2日より2泊3日の日程で行われました。参加者は生徒35名、教員7名、そして静岡ＹＷＣＡの会員である藤原玲子さんの合計43名でした。今年の主題は「命の光」でした。社会福祉法人牧ノ原やまばと学園での活動を中心に、やまばと学園の理事長の長沢道子先生による主題講演、日本基督教団掛川教会牧師の高桑義雄先生による聖書研究、グループディスカッション、バーベキューなどさまざまなプログラムが行われました。やまばと学園では学園の方々とうちわ作りを通して交流し、また障がい者支援施設や特別養護老人ホームなどいくつかのグループに分かれ清掃や散歩のお手伝いをさせていただきました。参加者一人ひとりにとり貴重な体験であり、多くの学びを得た3日間でした。

関西地区

8月1日～8月3日まで、大阪のプール学院中高が当番校で、大阪ＹＷＣＡ、プール学院を会場に開催されました。8校から生徒94名、引率など大人27名、日本ＹＷＣＡから派遣の横山由美子さん・遠藤真理さんの121名の参加者がありました。テーマは「神さまがお造りになった世界―ＭＯＴＴＡＩＮＡＩ」で環境のことを考えました。講師には大阪ＹＷＣＡ会員の雀部真理さんと日本聖公会川口基督教会牧師の岩城聰司祭にお願いしました。お二人のお話から自分の頭で考えて何をすべきかを考えることを学びました。フィールドワークには大阪南港にある「ＡＴＣグリーンエコプラザ」に行き、クイズ形式で環境のことを考えました。2日目の夜にはグループごとに、ごみ処理・地球温暖化・放射能汚染・飢餓などのテーマを決め2日間で学んだことから自分たちはこれからどうしたらよいかを分かち合い、自分たちの気持ちを祈りにし、ろうそくを使った礼拝の中でささげました。このカンファレンスで考えたことを、参加した生徒たちが普段の生活の中でも継続して考えてほしいと思います。

中高ＹＷＣＡ委員会

エンパワーするNGO

YWCA

第30回原爆絵画展

全国から400枚のポスター

甲府YWCA

1981年以来、この展覧会が30回続けられたのは、会員家族、賛助員、教会・山梨英和関係者、地域の方々のお祈りとご協力のお陰である。「平和を実現する人々は幸いである」のみ言葉に支えられ聖霊の豊かな導きがあったことに深い感謝を覚える。今年は30回の記念事業として①原爆絵画展②「平和を願うポスター」募集③記念誌発行の三本立てとし、会員を3グループに分割して作業を行った。

展示内容は①広島市民の描いた原爆の絵②丸木位里・俊「原爆の図」より「長崎」「原子野」③平和を願うポスター④山梨県内被爆者の絵⑤広河隆一写真「3・11福島原子力第一発電所で何が起きたか」⑥広島・長崎写真パネル⑦福島Y成作「いのちを選ぶ」バーナー⑧山梨英和高校YWCAの活動⑨ピースツリー⑩ピースキルト⑪書籍⑫折り鶴コーナー。400枚もの幼児から高校生までのメッセージ付きポスターは見る者の心を捉え、明るく会場を飾った。会期中入場者は500名以上。2日目タイムリーに現れた俣野尚子日本YWCA会長は、ラジオ生番組に出演・表彰式でのご挨拶と大活躍。無事にすべてのプログラムを終了し充実感と快い疲労感を覚えた。少人数ながら会員が心を一つにし、力を結集した今回、平和への思いがさらに強固なものに。今後も「核」否定の思想に立ち、新たなプログラムを加えながら平和への取り組みを続けたい。

記念誌は各YWCAに配布済みであるが、希望者は甲府YWCAまで連絡を。

甲府YWCA　五味優子

ご協力ありがとうございます

東日本大震災被災者支援募金

有賀三奈子　井澤須美子　伊藤いく代
伊藤富美子　伊藤アヤ子　小野小夜子
小谷野淳子　大澤恵美子　笠嶋多希子
梶原恵理子　小林喜美子　近藤真由美
鈴木すゞ江　柴田紀美子　高岩由美子
髙橋りえ子　髙月三世子　武井多佳子
田村三保子　鶴長美樹子　辻村喜久子
富岡美知子　中西トク子　幡江美智子
原　芙左恵　原　美根子　籏　眞紀子
久宗百合子　松村ユカリ　村山公実子
八村悠紀子　渡辺寿美子　望月桂一郎
望月和子　赤木弘子　青木浩子　秋元靖子
浅田和美　阿部有三　阿部幸子　池上幸子
石藤治子　板橋俊子　板橋幸子　井出　都
今堀愛子　井上裕美　伊藤眞代　白井陽子
臼田治子　内海公子　浦田伸子　江崎啓子
江副史子　江副富子　遠藤洋子　奥田道子
折戸和子　大野綾子　小仁恵子　河野富子
川西　薫　鎌原恵子　梶山好美　叶　路子
神津房子　河津百合　小泉陽子　甲子雅代
坂和　優　庄子泰子　志賀洋子　島津良子
島田麗子　嶋田　紫　首藤和子　須藤和子
杉原壽子　隅谷優子　高柳博一　谷口道子
田村セツ　俵　恭子　辻井夏子　外崎弘子
常葉俊子　土橋克子　土居松枝　中島潤子
難波郁江　布村耐子　野呂幸子　野田澄子
原田早苗　比企敦子　萩原　正　早田紀子
藤井初子　松本幸子　松本京子　松本宏一
松本彰雄　松下倶子　松岡信子　松川ゆか
丸田昭江　真野あや　宮内貞子　宮澤玲子
三浦篤子　村松幸子　村上啓子　本橋千秋
森　晶子　安江恵津　山口恒惠　山内明子
八木高子　渡辺　峯　渡辺順子
和田崇子　J. E. ランデス　ランデス　ハル
搜真女学校奉仕委員会2011年度3学期
全校生徒献金　大阪女学院中学校・高等学
校宗教部　松山東雲中学校・高等学校
東洋英和女学院同窓会　ヴラダン・コチ震
災被災地支援コンサート実行委員会
日本キリスト教団千葉教会婦人会
平和をつくり出す宗教者ネット
幼保園ベビーサロン新中野
こひつじ保育園PTA
東京YWCA（世界YWCA総会募金より）
東京YWCA会館1階募金箱
湘南YWCA　静岡YWCA　長崎YWCA
加盟YWCA中央委員会日曜礼拝席上献金
加盟YWCA中央委員会募金箱
（2012年4月21日～8月20日現在
敬称略）

＊2011年3月15日からの
募金総額4850万5125円

賛助費

青木浩子　秋元靖子　有賀三奈子
浅田和美　阿部幸子　石橋さなえ
阿部有三　荒川知子　伊藤アヤ子
井田すみ　伊藤眞代　梶原恵理子
岩橋百合　臼田治子　木田みな子
梅本弘子　江崎啓子　具島美佐子
江副史子　岡崎敏雄　朽木美奈子
小川和子　片山　惠　小林喜美子
鎌原恵子　岸田晃子　杉田佐紀子
小貫ツマ　小林多美　大工原則子
斎藤康代　鈴木恭子　髙月三世子
鈴木　榮　鈴木伶子　谷山久美子
須部道子　諏訪昭子　辻村喜久子
高橋栄子　田中倍子　中西トク子
土屋幸子　常葉俊子　仁科謙太郎
鶴崎祥子　東郷克世　平木貴美子
得永道子　長塩滋子　藤沢貴代子
中島潤子　西田和子　松村ユカリ
野呂幸子　一杉静子　三股まさ子
深田光代　藤井初子　宮城崇美子
堀江宣子　町田裕子　森際眞知子
松岡信子　湊　晶子　山田久美子
桃井明男　八木高子　横山キミイ
芳川雅美　吉田亜希　吉田瑠都
渡辺園子　匿名

ピースメーカーズファンド
～女性が創る安全な社会のための寄付～
浅田和美　石川松子　五十嵐菜々子
古賀　円　岩崎妙子　臼田治子
江副史子　大野綾子　小貫ツマ
斎藤史恵　田村セツ　鶴崎祥子
難波郁江　比企敦子　米原静子
藤井初子　渡辺　峯　東洋英和女学院
中学部高等学部宗教委員会　NCC女
性委員会世界祈祷日　浦和YWCA
名古屋YWCA　甲府YWCA有志
福島YWCA有志　静岡YWCA有志
ひろしまを考える旅参加者有志
中高YWCA委員会有志　匿名

多文化共生サポーター（国際協力募金）
浅田和美　石川松子　臼田治子
小貫ツマ　藤井初子　匿名

（パレスチナYWCA支援募金）
浅田和美　臼田治子　坂和　優　藤井初子
NCC女性委員会世界祈祷日　匿名

（オリーブの木キャンペーン募金）
浅田和美　阿部幸子　田坂紗久子
板橋幸子　臼田治子　三股まさ子
熊谷麻里　小貫ツマ　重松＆池畑
坂和　優　田中倍子　月原綾子
鶴崎祥子　藤井初子　松本彰雄
MatsumotoSana
Rupert・E・Martin　匿名
（2012年8月20日現在 敬称略）

発行所 財団法人日本YWCA
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03・3264・0661
office-japan@ywca.or.jp

【駿河台オフィス】
〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11
東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121/FAX 03・3292・6122

編集発行人 鈴木伶子
振替 00170-7-23723（毎月1日発行）
定価1部 150円
年間購読料 1,260円（送料込）